

県北部における夏どりブロッコリーの作型と品種

園試・高冷地開発センター  
農試・県北分場

1. 背景とねらい

ブロッコリーは消費量の伸び率が高い品目で、夏期の需要も着実に増加している。この時期は高温による異常花蕾が発生しやすく、高冷地等が栽培適地となるが、花蕾の腐敗が多発するなど、生産の不安定な時期でもある。現地ではより優れた品種の導入を試みているが、必ずしも品種特性を生かした利用となっていないのが現状である。そこで、作期に対応した品種等について検討した結果、優良品種及びその栽培特性が明らかになったので参考に供する。

2. 技術の内容

(1) 地帯別・作型別適応品種

地帯	は種期	適応品種	収穫期
高冷地 (標高300m以上)	4月上～4月中旬	ハイツ	7月上～7月中旬
	4月下～5月中旬	ハイツ	7月下～8月中旬
	4月下～5月中旬	緑嶺	8月上～8月下旬
	5月下～6月中旬	緑嶺	9月上～9月下旬
平坦地 (標高300m以下)	4月上旬	ハイツ	7月上旬
	4月中～5月下旬	緑嶺 ハイツ	7月中～9月上旬

(2) 品種特性

品種	生育		側枝の		リ-フィー	不整形花蕾	花蕾の紫変
	日数	草勢	草姿	発生			
ハイツ	85	中の強	開	やや多	無	無	無
緑嶺	92	強	半開	やや多	無	無	無
(比) マリモ85	80	中	開	やや少	無	有	有
(比) 緑洋	88	中の強	開	中	有	有	無

品種	花蕾の品質					
	色沢	粒の大きさ	粒の揃い	花蕾面の粗密	大きさ	厚み
ハイツ	淡緑	小	極良	密	やや大	やや大
緑嶺	緑	小	良	密	やや大	やや大
(比) マリモ85	緑	中	並	並	中	中
(比) 緑洋	緑	中	並	やや密	大	やや大

### 3. 指導上の留意事項

- (1) 育苗期間中は日中の目標温度を20℃とし、25℃以上で換気する。夜間は最低温度10℃を確保できるように保温する。5月下旬以降のは種期でも、できるだけ雨よけハウス内で育苗し、苗の安定生産をはかる。
- (2) 定植時の苗齢は本葉5枚程度とし、遅くとも本葉6枚までに定植する。
- (3) 本作型での栽植距離は「ハイツ」：「緑嶺」ともに、畦幅60cm、株間30cm程度(556株/a)が適当である。
- (4) 「ハイツ」：「緑嶺」ともに基肥主体の施肥とし、定植後10～14日頃に追肥して、中耕・培土する。
- (5) 出蕾期間の平均気温が18℃以上の場合、降雨により花蕾に軟腐病が発生しやすい。この対策として、黒腐病防除と兼ねて、収穫2週間前までの予防散布を徹底する。また、出蕾直前の雨よけも効果が大きい。
- (6) 夏どり作型では花蕾の発育が急激なので、適期収穫に努める。収穫は朝夕の涼しい時間帯に行い、花蕾を強く振って、花蕾内の水分を除く。

4. 当該事項にかかる試験研究課題名 省略

5. 参考文献・資料 省略

### 6. 試験成績の概要

表1 夏どりブロッコリー品種の有望度及び花蕾品質 (高冷地開発センター)

品 種	有 望 度			花 蕾 品 質					
	は種日(月日)			色 沢	粒 の 粒 の 花蕾面	粒 の 花蕾面	花蕾の 障 害	障 害	
4.17	5.8	6.11	大きさ						揃い
(標) マリモ 85	△	△	×	緑	中	並	並	中	6.11テコホコ
(標) 早生緑	×	□	×	緑	中	並	並	竹小	6.11リーフィー甚
マーシャル	×	□	×	緑	中	並	並	中	6.11リーフィー多
グリエール	○	-	×	緑	小～中	並	竹密	中	6.11リーフィー多
(標) 東京緑	×	×	×	緑	竹大	並	並	竹大	4.17テコホコ
ハイツ	◎	◎	□	淡緑	小	良	密	竹大	
(標) 緑 洋	×	×	×	緑	中	並	竹密	大	4.17,6/11テコホコ
むらくも	□	□	□	濃緑	竹大	並	竹密	竹大	
スリーメイン	□	×	□	淡緑	小	良	密	中	5.8ホトシカ,リーフィー
F7ブロッコリー	○	□	□	淡緑	小	良	密	竹大	
KC - 1804	○	□	□	淡緑	小	良	密	竹大	6.11テコホコ
緑 帝	○	□	□	緑	小	良	密	大	6.11リーフィー少
緑 嶺	□	◎	○	緑	小	良	密	竹大	
直緑28号		□	□	緑	小	良	密	竹大	

凡例 ◎：有望 ○：やや有望 □：再検討 △：劣る ×：見込みなし -：不明